

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 424 号	氏名	及川 将弘
学位審査委員	主 査	中島 正洋	
	副 査	兼松 隆之	
	副 査	増崎 英明	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、乳腺嚢胞内乳頭状腫瘍の良悪性鑑別のために、高密度一塩基多型マイクロアレイ競合ゲノムハイブリダイゼーション (aCGH) 法による細胞遺伝学的プロファイルを解析したものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 良性乳頭腫 (Papilloma : Pap) 5 例、非浸潤性乳頭癌 (Papillary carcinoma : PC) 3 例、浸潤性乳頭癌 (Papillary carcinoma, invasive : PCinv) 2 例を含む 10 例の Formalin-fixed paraffin-embedded (FFPE) 試料から DNA を抽出し aCGH 解析を行なった。FFPE からの断片化 DNA を用いた全ゲノム解析であるため、制限酵素断片の長さによる増幅効率の差を腫瘍部と正常部のペア解析により補正していて、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 FFPE 試料から抽出した DNA を用いても aCGH 解析が可能であった。染色体構造変化の頻度は Pap から PC, PCinv と腫瘍の進行とともに有意に亢進することが判明し、悪性腫瘍のもつゲノム不安定性の関与を示唆するもので、臨床的に良悪性の判断の難しい本腫瘍の術前診断への応用が大いに期待される。</p> <p>以上のように、本論文は、未だ不明な点の多い乳腺嚢胞内乳頭状腫瘍の進展機構の解明に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			